

# 磐城時報

石城郡平町新聞社  
印刷所 石城郡平町新聞社  
電話 石城郡平町新聞社  
電話 石城郡平町新聞社  
電話 石城郡平町新聞社

## 町長や町會議員に責任を問ふのは無理

### そんな馬鹿騒ぎをするより 將來の對策でも講ぜよ 平町民一般の意嚮

大瀧發電所の行政訴訟は平町の敗訴に歸した事昨報の如く同問題に平町として殆んど空前絶後とも言ふべき大問題で一般町民が強い印象を持つてゐる事件だがあつて敗訴と決つた今日、之に關する話題は至る處で耳にする程であるが、兎に角未だ判決文を手にしないので如何なる敗因かを知る能はず町當局其他水道委員等に於ても對策等を講じ兼ねてゐる事情である。然るに氣の早い一部の人は大瀧發電所の問題が發生後平町をして鼎沸良好で幾分の増収を豫想され元石城郡に南仲買人を集めたるの沸くが如き混亂状態に陥らしめてゐるが目下三箇月中で春南出廻意する筈である。

## 手附金だけで繭を買ふ奸商

### 今年度は更に跋扈の模様

石城地方の春蠶は屢報の如く成日には植田町繭市場、三日には所問題が發生後平町をして鼎沸良好で幾分の増収を豫想され元石城郡に南仲買人を集めたるの沸くが如き混亂状態に陥らしめてゐるが目下三箇月中で春南出廻意する筈である。

## 平第三校

### 明年度に計上

事件の發生は既に伊坂町長時代在り。伊坂町長は本来ならこの問題を片付けて辭職するに免れ、未解決のまま、病氣の故を以て一萬圓を貰ひ、抜けて退職しその後を伏見町長が繼いだもので、事件に對する對策其他は町長が發案して打合せをなしたが、六月二日事になつたが、之は現在の平

商業學校を舊營中跡に移しその敷地一千坪を一坪百圓位で賣却すれば十萬圓を産出するので之を第三校新設費に充てる方針らしいが、その位置は南町裏新市街附近に定める方針であるらしい。

## 庭球場竣成式

### 雨天のため延期中

のため延期中の磐城高等女學校庭球場固定ネット竣成式は二十九日午前十一時から同庭球場で行ふ筈で當日は磐城炭礦平俱樂部から各一組宛出で模範試合の學生徒の一般試合を行ふ。

## 病氣の夫を捨て、妻が情夫と駈落ち

二十五日午前十一時半頃平町谷口樓側堀端に四五歳の女児を背負つた四十歳位職人風の男が倒れてゐるのを其筋で手當をなし事情を聞いた處の男は當時東京市本所區ペンキ塗職人大住一之助(四二)並にその長女君子(四ツ)の一助は千葉縣生れ穂積泰一(三八)と言ふ妻と共に東京から強度のモルヒネ中毒者となり一日三本位宛六七回注射せねばならなくなつたので妻は嫌氣がさしたのか同家の弟子南村好太郎(三二)といつた情を通じ去月中手を携へて墮落したので一之助は不自由な身に子供を背負ひ自分を裏切つた姦夫姦婦の行術を探す可く水戸から平町に辿りつき打倒れたもので所持のパスケツにはモルヒネ注射器具が一つばいに入つてゐたが、平町で行術を捜索してやから歸れと勸めたが、草の根分けても探し出すと再び子供を背負ひ郡山方面に向つた。

## けふ海軍記念日に

### 警中、商校のマラソン

今二十七日は海軍記念日に當つてゐるので在平各學校ではマラソンの成績左の如くである。

警中(平、草野間往復八哩)  
一着四年小林行雄六分二七秒  
二着五年西山直治六分三七秒  
三着四年木幡英男六分二五秒  
四着二年平山三郎六分五十分  
五着三年大平正夫六分五十分  
六着三年生田傳一郎七分二二秒  
七着二年佐藤英夫八着五年馬山武義九着五年西山廣吉十着二年齋藤利良(各組の団体競走一着は二年二の組)

平商校(平、綴間往復五哩)  
一着三年早川庄喜三分三〇秒  
二着同石黒光男三分三七秒  
三着二年大木三三七分五秒  
各年別成績  
三年一、早川庄喜二、石黒光男三、野口武雄四、宮本勇五、有坂次郎  
二年一、大木昇二、木幡廣三、小野瀬英治四、阿部克英五、松本茂雄  
一年一、丹野正二二、根内武久三、渡邊正元四、遠藤正義五、志賀熊雄

## 謹告

来る二十九日午後一時平模擬市會市長及び正副議長選舉を執行致候條緒屋町本社に御參集願上候

## 平模擬市會議員各位

### 磐城時報社

## 大瀧問題に關する意見

### 如何なる事があつても妥協には反對だ

#### 反對同盟會副會長 大森 勇氏談

大瀧發電所行政訴訟が平町の敗訴に歸した事について平町會議員であり又反對同盟會副會長である大森勇氏は語る。「訴訟が負け決定すれば、更に對策を講ぜねばならぬ。近頃反對同盟會を開いて協議するつもりである。假令訴訟に負けても會社と妥協する事は絶対に反對だ。何となれば第一理由として、發電所用水は毎秒七十筒、大瀧江筋に流さねばならぬ水量は十三筒更に好間川本流に魚類棲息のため水量は之を流さざる可からず即ち好間川には常に八十筒の水が流してゐるが昨年五月の好間川の水量は最高三十九筒、最低三十一筒、更に一箇年の三分の二以上は八十四筒に達してゐない。結局好間川に於て水道と發電所は根本から兩立しないわけである。第二に妥協に反對するの

## 朝日機墜落

### 東京朝日

は、會社側では訴訟提起以前に「平町が敗訴すれば非道い目にあふ」と口外してゐたが之は發電所設置は水道に危害を加へる事を信じてゐたもので即ち平町を犠牲にしても利益を圖るといふ誠意のない人々と妥協して安心は出来ぬ。故に發電所の水槽から水を取るといふ妥協はその水槽が如何に完全でも反對する。この問題のためには今後奮闘する決心だ」と極めて強硬な意見を述べた。そこで記者が「發電所設置後は取水口以上の本流は水質が悪化する」とすれば、その悪化した水を水道に引くとしても水槽から分水する事には反對ですか」と念を押せば「それでも仕方がない」と語つた。

### 三縣聯合 庭球大會

平庭球俱樂部主催第六回福島、茨城、宮城三縣聯合庭球大會は六月五日午前八時から平商業學校で舉行の筈で、参加組は百組を豫想されてゐる。

### 磐城時事研究会 緊急協議會

廿六日於壽々亭  
磐城時事研究会は廿六日午後六時より壽々亭に開催、大和軒開村字三反田、小泉、山野邊、渡邊、鈴木(三五)同村字北好間字槐作飲

### 毎週土曜デー

### 品一十錢

カフエーイタヒラ  
平町一丁目(電話六二〇番)

◎土曜デー洋食の出前は御遠慮下さい。

の諸氏出席、來賓として諸橋元食店小森七藏(四八)の三名は三郎、關内正一の兩氏出席、定十六日午後九時前記小森方で賭博開帳中鳴原、中島兩巡查に踏み、關内正一氏の謝辭に次いでみ込まれ逮捕の上取調中である。労働争議、大瀧發電所問題に關し協議を遂げ宴に移り午後十時半盛會裡に散會したが、同會にては更に廿八日午後六時半より磐城經濟新聞社内に緊急協議會を開催する筈である。

たぬ二十八日午後六時半から平劇場で「映畫の夕」を催はし、所員並に家族の慰安會を開くと。

### 平檢車所 映畫の夕

東京鐵道局平檢車所は設置されて十年になるので之を紀念するが同地に巡業した際映畫技手及び貨車に觸れ重傷を負つた。

▲古河の賭博 當時好間

▲古河の賭博 當時好間

### 東京商品取引

(五月廿七日前場)  
◎米  
一限 五限 六限 七限  
二限 三限 四限 五限  
三限 六限 七限 八限  
四限 九限 一〇限 一〇限  
五限 一〇限 一〇限 一〇限  
六限 一〇限 一〇限 一〇限  
七限 一〇限 一〇限 一〇限  
八限 一〇限 一〇限 一〇限  
九限 一〇限 一〇限 一〇限  
一〇限 一〇限 一〇限 一〇限

### 活動技手

女將に見込まれた  
駐落ちして捕はる

▲專用線で重傷 磐城  
村藤源流忠太(三六)は二十四日午後一時半頃湯本驛から分岐す

驚いた!!!  
こうまで安いとは  
加納活版所の印刷物!!

驚いた!!!  
こうまで安いとは  
加納活版所の印刷物!!

驚いた!!!  
こうまで安いとは  
加納活版所の印刷物!!

### 東京株式清算取引高低表

第一節	寄付	止	白煉	二八三	磐七	六二五
			日七	四一五	久原	五四三
			淺野	七七九	同新	六二五
			同新	三六二	同新	六一五
			自動	三三七	權太	
			同新	一四七	日魯	
			富紙	七六一	同粉	
			同新	二八二	同粉	
			同新	四三二	同粉	

### 短期相場

寄付	高値	安値	引値
鹽水	五二〇	五〇〇	五〇〇
久原	五二〇	五〇〇	五〇〇
新淺	五二〇	五〇〇	五〇〇
日石	五二〇	五〇〇	五〇〇
新東	五二〇	五〇〇	五〇〇

### 婦人病の道

スポンイン  
強壯の効  
著大  
血を  
ふやし  
肉を  
肥やす

代 理 店  
山 野 邊 藥 局  
平 町 五 丁 目 角

### 正札堂

「ヤア君か」  
「ヤア君か」  
見違へたよ、  
た互に余り  
立派な洋服に  
なつたので...

平町車場通

### 磐城無盡商會

◎簡易の金融—誠意—堅實—◎趣味の貯蓄—共存—共榮—  
▲絶へず會員を募ります ▲何時でも御申下下さい  
大藏省 免 許  
本店植田町本丁 支店平町中丁

### 新電話 百二十五番

平町三丁目  
店主 永木 八五郎

### セービ

悪性皮膚病、柳花病、防二ハ  
特約店 磐城平町 内藥局  
電話四〇番

### 元 祿

生々とした自然の黒髪に染まる  
しらが、赤毛染の大王  
君ケ代、ナイスより染色力永く保ち安し。  
平町一番の 藥劑師 宇佐美藥舖  
平町田町(電話五五一番)

### 故母ヨシ儀告別式の際に遠路御會葬被下且つ御鄭重なる御香奠を賜り厚く奉深謝候

昭和二年五月二十七日

男  
親戚總代 上 鈴木 高合  
友人總代 田 耕 木 重 津 重 世 雄 六 作